

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	福島県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福島県白河市立白河第二中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	6	6	1	20	36
生徒数	203	201	202	2	608	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人に確かな学力が育つ授業はどうあればよいか
～個に応じた指導の通して～

2. 内容と方法

(1) 実践学年・教科

・全学年全教科において確かな学力を育てる研究を行う。
本校は昭和55年度から全学年全教科において学習指導法の研究をおこなってきた。平成11年度までの2年間には、「一人一人に生きた学力が育つにはどうあればよいか」という主題のもとに、授業の中に思考力・表現力の育成を図る場を位置づけてきた。具体的には、指導内容の重点化を図り、生徒が自分の考えを深める場を確保し、表現する機会を計画的に組み込んできた。その結果、生徒が自己表現に対して意欲的に活動する姿が見られるようになった。
さらに、主題にせまるためには、基礎基本の定着が不可欠であると考え、平成12・13年度は、「一人一人に生きた学力が育つ授業はどうあればよいか」を主題として掲げ、生徒が課題意識を持ち、積極的に学習に取り組む授業の実現を目指した。そこで、教科の精選、指導内容の重点化とまとめの工夫、評価の機会・方法の工夫とフィードバックによる指導、個性に応じた指導の工夫、の3点の中から教科ごとに視点を選んで指導を行った。その結果基礎基本の定着を図るには、一人一人の生徒に対して、できるようになるまで続けるねばり強い指導の必要性があげられてきた。
そこで、平成14年度より一人一人の生徒に対して、より細かく指導が行き届くようにと「個に応じた指導」を副主題に設定している。また、今までの本校の研究実践経過から「学校をあげて教師一丸となって取り組む」ということをふまえて全教科・全学年で行っている。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 一人一人に確かな学力が育つ授業はどうあればよいか ～個に応じた指導を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説) 各教科の授業において、個に応じた指導をすることによって、生徒一人一人に確かな学力が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法 学習課題・学習コースの選択による学習 個別学習、グループ学習 習熟度別学集 協力教授(TT) 豊かな体験活動・問題解決的活動 弾力的な指導計画の作成 教材の開発と工夫 の中から教科の実態に応じた項目を選択し、個に応じた指導を行う。</p>
--------	--

	<p>国語科 個別学習、グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の考えを小集団に、小集団の考えを全体に反映させ、多様な見方や考え方を聞き、自分の言葉でまとめ課題の解決を図る。 ・生徒同士の作品の読み合いや賞賛の場全体での発表の場を多く取り入れる <p>社会科 教材の開発と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態の把握を正確に行う。 ・個に応じた指導を進めるための教材の開発と工夫をする。 ・教材についての評価を行う。 <p>数学科 習熟度別学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の選択教科の時間に3つの習熟度別コースから各自が能力にあったコースを選択することにより、意欲的な学習態度を育てる。 ・1時間ごとのプリント学習を実施することにより、学習内容の焦点化を図り学力の定着を図る。 ・自己評価を行い、到達度を各自確認して次の授業に活かす。 <p style="text-align: center;">協力教授（TT）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、各クラスで週1時間のTTの授業を展開することにより、個別指導の時間を多く取り入れて生徒が意欲的に学習に取り組めるようにする。 <p>理科 個別学習・グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TTでの授業を含め、4人から3人、2人となるべく少人数での実験観察が行えるように工夫する。 <p>音楽科 豊かな体験学習・問題解決的活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱や楽器の演奏の体験を通して読譜力の育成をする。 ・インターネットを活用し調べ学習を行う。 <p>美術科 個別学習・グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握を正確に行う。 ・学習カードの活用をする。 ・基礎的事項の定着を図る。 <p>保健体育科 豊かな体験学習・問題解決的学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習の多様化や問題解決学習をすることにより、生徒の意欲づけを図る。 <p>技術・家庭科 個別学習・グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班活動（小集団）の場を設定することによって、下位生徒が学習に遅れず学習できるようにする。上位生徒はリトルティーチャーとなる。 ・スモールステップ毎の点検、評価を行うことで一人一人に目的を持たせ、それに応じた指導及び対話を持つようにする。 ・机間援助や師範を通して誤りの指摘や訂正のできる雰囲気作りに配慮する <p>英語科 習熟度別学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の選択教科の時間に3つの習熟度別コースから各自が能力にあったコースを選択することにより、意欲的な学習態度を育てる。 ・1時間ごとのプリント学習を実施することにより、学習内容の焦点化を図り学力の定着を図る。 ・自己評価を行い、到達度を各自確認して次の授業に活かす。
--	---

平成15年度	<p>テーマ 一人一人に確かな学力が育つ授業はどうあればよいか ～個に応じた指導を通して～</p> <p>研究の見通し 各教科の授業において、個に応じた指導をすることによって、生徒一人一人に確かな学力が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法 特に指導法の改善としては、次のような形態を入れることとした</p> <p>3年選択 数学英語 習熟度別授業 週2時間</p> <p>2年数学 習熟度学級編制授業 授業時1クラスを2クラスに編成 2クラスはA（基礎基本：基礎を大切にし、ゆっくり進む） B（標準発展：通常の授業に発展問題を解く）</p> <p>2年英語 習熟度学級編制授業 授業時1クラスを2クラスに編成 2クラスはA（基礎：基礎を大切にし、ゆっくり進む） B（応用：通常の授業に発展問題を解く）</p>
--------	--

発展、補足的な指導への取り組み
ア、終末でガイダンス的に発展的な問題を投げかけ、家庭学習などで実施させる。
イ、指導と評価の一体化として、単元テストの評価を生かし、その後補充発展学習をする。

各教科で下の ~ の中から1つを選択し、教科の研究内容を設定し、研究を進めることにした。

学習課題・学習コースの選択による学習
個別学習、グループ学習
習熟度別学集
協力教授(TT)
豊かな体験活動・問題解決的活動
弾力的な指導計画の作成
教材の開発と工夫

の中から教科の実態に応じた項目を選択し、個に応じた指導を行う。

数学科 習熟度別学習

- ・3年生の選択教科の時間に3つの習熟度別コースから各自が能力にあったコースを選択することにより、意欲的な学習態度を育てる
- ・1時間ごとのプリント学習を実施することにより、学習内容の焦点化を図り学力の定着を図る
- ・自己評価を行い、到達度を各自確認して次の授業に活かす
- ・昨年度はTTも教科の研究内容に含めてあったが、本年度はより効果があると考えられる習熟度別学習に絞って研究をするに決めた

英語科 少人数学習

- ・単元や学習課題、学習目的の違いによってクラスを分けることにより、個に応じた指導をより充実させるようにする。
- ・少人数に分けたクラスにおいても、段階的な学習課題を設けることで、理解段階にあった学習を進められるようにし、意欲的な学習態度を育成する。
- ・達成基準を定め、達成不十分な生徒には十分な手だてを考慮する。

[2学年]

- ・6クラスすべての学級、週3時間すべての時間で、少人数授業を行う。
- ・学年当初は、慣れるまでTTを行い、生徒の実態把握後、1学級を2つのグループ〔A:発展、B:基礎〕に分けて少人数編成をする。
- ・編成方法は生徒の希望によるが、より合ったグループを選択させるため、教師からも働きかけをする。
- ・保護者への対応は、学校、学年集会などで説明し、理解を求める。

国語科 学習課題・学習コースの選択による学習

- ・生徒が興味をもつような学習課題や学習コースを設定し、自主的に学習に取り組めるようにする。
- ・苦手意識をもたないように、「できる」という充実感をもたせ、意欲的に学習に取り組めるようにする。

社会科 教材の開発と工夫

- ・生徒の実態の把握
- ・個に応じた指導を進めるための教材の開発と工夫
- ・教材についての評価

理科 豊かな体験活動・問題解決活動

- ・自然や身の回りの現象を科学的に解明する実験・観察を多く取り入れられるような教材の開発を行う
- ・昨年度の生徒の実態から実験が好きであるということから、本年度は豊かな体験活動・問題解決活動を重点として取り組んだ

音楽科 豊かな体験学習・問題解決的活動

- ・日本の音楽について実際に楽器に触れる、演奏する体験を取り入れる

美術科 個別学習・グループ学習

- ・学習カードの活用をする
明確な主題設定と表現意図を持たせ、主体的に取り組ませる
見通しを持たせる参考資料の工夫
- ・基礎的事項の定着を図る

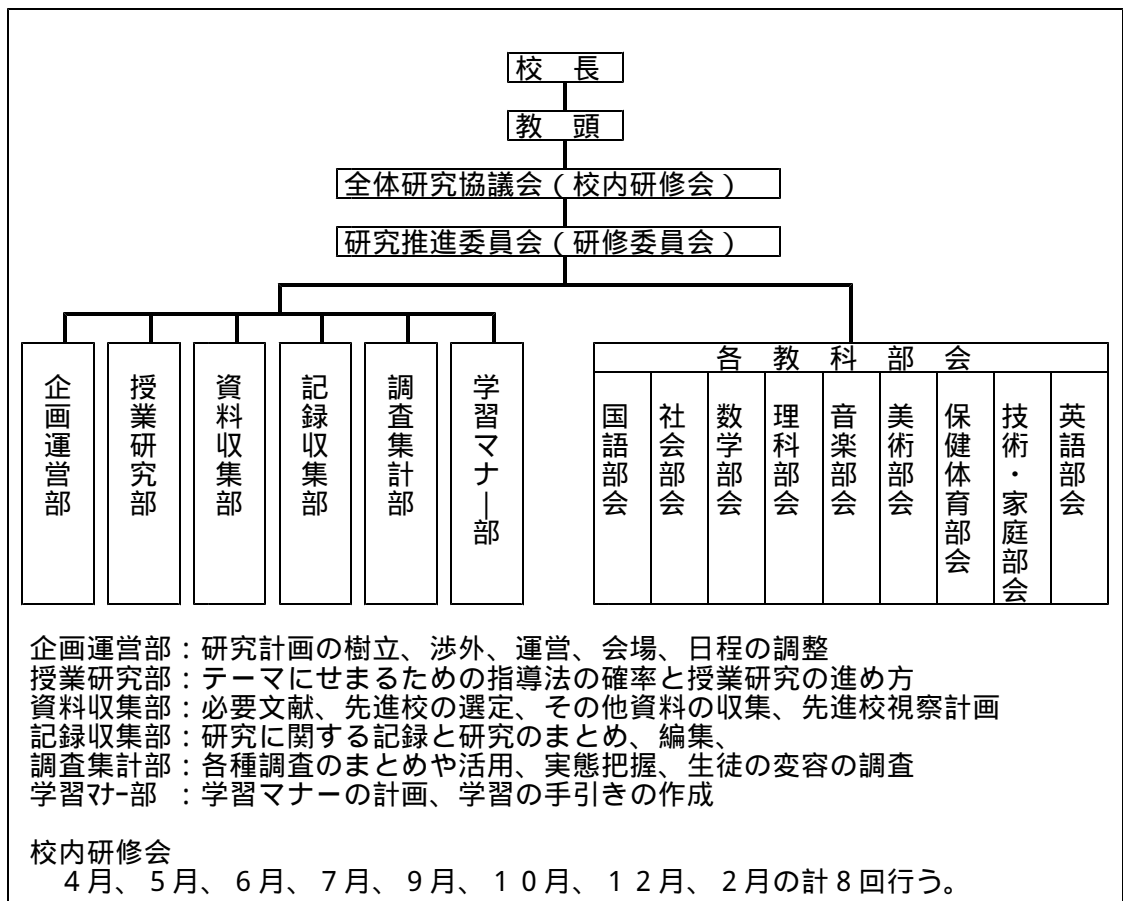
保健体育科 豊かな体験学習・問題解決的学習

- ・練習の多様化や問題解決学習をすることにより、生徒の意欲づけを図る。

	<p>技術・家庭科 個別学習・グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班活動（小集団）の場を設定することによって、下位生徒が学習に遅れず学習できるようにする。上位生徒はリトルティーチャーとなる。 ・スモールステップ毎の点検、評価を行うことで一人一人に目的を持たせ、それに応じた指導及び対話を持つようにする。 ・机間援助や師範を通して誤りの指摘や訂正のできる雰囲気作りに配慮する
--	--

平成16年度	<p>テーマ 一人一人に確かな学力が育つ授業はどうあればよいか ～個に応じた指導を通して～</p> <p>研究の見通し 各教科の授業において、個に応じた指導をすることによって、生徒一人一人に確かな学力が育つであろう。</p> <p>研究内容・方法 平成14年度に引き続き全学年、全教科にて行う。 3年選択 数学英語 習熟度別授業 週2時間 2年数学 習熟度学級編制授業 授業時1クラスを2クラスに編成 2クラスはA（基礎基本：基礎を大切にし、ゆっくり進む） B（標準発展：通常の授業に発展問題を解く） 2年英語 習熟度学級編制授業 授業時1クラスを2クラスに編成 2クラスはA（基礎：基礎を大切にし、ゆっくり進む） B（応用：通常の授業に発展問題を解く）</p> <p>発展、補充的な指導への取り組み ア、終末でガイダンス的に発展的な問題を投げかけ、家庭学習などで実施させる。 イ、指導と評価の一体化として、単元テストの評価を生かし、その後補充発展学習をする。</p>
--------	--

(3)研究推進体制（本校研修組織）



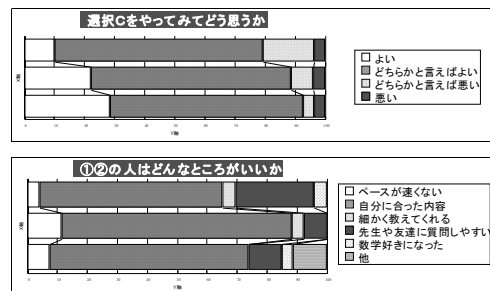
平成15年度の成果及び今後の課題
1. 研究の成果

右の表はH14年と15年の生徒の実態調査である。習熟度のコース別授業を中心に行っている英語と数学2、3年生ではほぼ昨年度よりも今年度の方がいい結果になっている。これは一人一人が「分かる授業」になっているからではないかと考える。

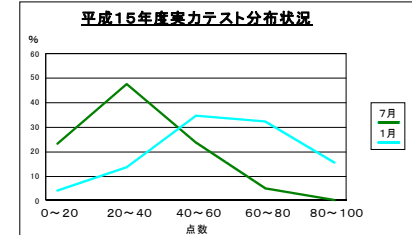
また、下の表は授業がどの程度分かるかを本校生徒のアンケート結果とH13年度の国立教育政策研究所の教育課程状況実施調査の比較をしたものである。授技内容が「よく分かる」「だいたいわかる」とした本校生徒の割合が多いことがわかる。

	学年	H15	H14
数学の学習は楽しい。	1年	38.3	46.6
	2年	62.3	11.1
	3年	20.2	15.7
英語の学習は楽しい。	1年	37.2	50.3
	2年	40.4	28.6
	3年	16.9	18.6
		本校	全国
授業がどの程度分かるか	一よく	9.1	6.2
	年だいたい	56.1	39.7
二よく	年だいたい	9.6	5.2
	三よく	68.9	35.9
年だいたい	四よく	10.6	7.5
	年だいたい	42.5	38.8

数学科：右のグラフは3年生の選択教科習熟度別コース学習の基礎コースを選択した生徒のアンケートである。学習をしていくのに従って、「よい」と思える生徒の割合が増加してきており、生徒が習熟度別の学習に対して、好印象を持っていることがわかる。また、その理由として、「自分にあった内容」とした生徒が多かった。
・普段の授業で見られる以上に意欲的になった。



英語科：右のグラフは7月と1月に行った実力テストの結果の得点分布を表している。テストで中位から上位の成績が伸びてきていることがわかる。少人数授業を始めた時点では、とまどいを感じている生徒が多かったようであるが、慣れてくると積極的に発言したり、質問する場面が多く見受けられるようになってきた。



数種類の練習問題の中から自分のレベルにあった問題を取り組むことができるので、下位の生徒も意欲的に取り組む姿が見受けられるようになった。

国語科：右の表は「どのような国語の授業を望むか」を一つ選ぶというアンケートを各学年1クラスずつ抽出してとったものである。「書くこと」を中心に学習コースを設定して取り組んできたため、アンケート結果に見られるように様々な学習活動の中でも「書くこと」を中心にした操作活動の授業を望む生徒の増加が多い。書くことに対して生徒が慣れてきているのではないかとと思われる。

	H15.12	H15.7
発言する機会が多い	9.8	12.5
1人1新聞1冊作成	26.0	13.5
作文、創作	10.4	6.3
班での話し合い	19.8	24.0
作文や感想文の発表	2.1	1.0
スピーチや発表会	3.3	4.2
調べ学習	18.5	30.2
その他	7.6	8.3

社会科：平成14年度の2年生と平成15年度（5月と1月）の2年生を対象にしたアンケート調査の比較結果である。社会科が好きと答えた生徒が多くなっており、生徒の興味・関心に沿った教材を用いたことによって、学習意欲が喚起された結果かと考える。また、歴史の本を読む、地図を見るなどは年度当初に比べ「好き」と答えた者の割合が減少し、資料を調べることを好む者が増加している。これは、学習の仕方が変化したことなども影響していると考えられる。

質問項目		H15.1	H15.5	H14
社会科は好きですか。	好	67.6	64.7	37.5
	嫌	32.4	35.3	62.5
歴史の本を読む。	好	76.5	81.8	51.5
	嫌	23.5	18.2	48.5
歴史上の人物に興味がある	好	61.8	63.6	57.6
	嫌	38.2	36.4	42.4
地図を見る	好	58.8	66.7	45.5
	嫌	41.2	33.3	54.5
地図を書く	好	41.2	39.4	6.1
	嫌	58.8	60.6	93.9
資料を調べる	好	82.4	66.7	45.5
	嫌	17.6	33.3	54.5

理科：平成15年度の第一回の検証授業では、動物の体の実物を観察をさせることは、動物の体がいやというイメージを大きく変えていた。また、臭いが気になることやぬるぬるした感じがいやというマイナスのイメージを持っていた58名中22名(38%)の生徒が感じなくなったという事からも、今後の課題追求につながったと思う。さらに動物の体についてのすべての授業が終わってから、まとめとして実物の観察を行ったが、「実物を見た後で、さらに学習してみたいと思ったことはあるか」という質問に対しても、31%が「ある」と意欲を見せていた。

音楽科：右の表は今年度6月と11月の生徒アンケートの結果である。

3年生では「音楽を楽しく学んでいる」と答えている生徒が増えている。これは校内合唱コンクールの取り組みや初めて経験したギターの学習の影響であると考えられる。多様な音楽に触れる経験を通して、音楽の楽しさが感じられるようになったのではないだろうか。

また、右のアンケート結果は上のアンケートで「とても楽しい」または「楽しい」と答えた生徒になぜ楽しいと思うかをさらに聞いた結果である。「楽器演奏が楽しい」と答えている生徒が2、3年生ともに増えているのは、2年生は箏の学習、3年生はギターの学習の成果であると考えられる。同時に3年生で「音符」と「実技」「音楽が得意」「皆と演奏するのが好き」を選んだ生徒が増えているのは、校内合唱コンクールの取り組みを通して、音楽に対する感じ方、考え方が変わってきたといえるのではないだろうか。

	学年	H15.11	H15.6
音楽はとても楽しい	2年	16.6	15.2
	3年	17.0	8.1
楽しい	2年	48.8	50.5
	3年	51.5	39.1
楽器を演奏できるから	2年	39.6	31.5
	3年	43.1	21.5
鑑賞が好きだから	2年	45.5	54.6
	3年	44.5	63.4
音符が読めるから	2年	17.2	16.2
	3年	11.7	10.8
実技がうまくなるから	2年	4.4	6.2
	3年	11.7	7.5
音楽が得意	2年	19.4	30.0
	3年	12.4	8.6
色々な曲を扱うから	2年	35.1	40.8
	3年	30.7	32.3
皆と演奏するのが好き	2年	14.9	17.7
	3年	8.0	4.2

美術科：右は、平成15年度と14年度の各学年1クラスを抽出して取ったアンケート結果である。美術の学習を「とても楽しく思う」生徒と「楽しい」と思う生徒が80%程度いて3年生を除く学年で増加している。その理由として「雰囲気明るい」とした生徒と「意見を言いやすい」とした生徒が増加している。また、それらは他の項目より多かった。これは、グループ活動で話し合いの場を設定しているためであると思われる。

また、作業の苦手な生徒も話し合いが援助になり、多くの参考作品を鑑賞することで、自信を持って作品制作に望むことができた。

	学年	H15	H14
美術はとても楽しい	1年	30.0	26.7
	2年	35.3	34.3
	3年	29.4	43.8
楽しい	1年	56.7	43.3
	2年	58.9	57.1
	3年	58.9	48.7
(理由)雰囲気が明るいから楽しい	1年	36.6	33.4
	2年	35.3	34.3
	3年	38.3	35.1
(理由)意見が言いやすい	1年	20.2	16.8
	2年	17.6	17.2
	3年	17.6	16.2

保体科：右のグラフは平成15年度と14年度の全校生徒を対象に取ったアンケートで「保体の授業が楽しいと思える」と答えた生徒の割合の部分を抜粋したものである。

マット運動では、多様なコースを設定し自らの課題を解決すべく場の工夫を行った。このことは生徒の問題解決学習への知的好奇心を高めることや目標値の達成意欲を高めることにつながった。また長距離走においては、学習形態の工夫と教え合いによる相互支援活動を中心に授業実践を行った結果、学習目標の設定・修正活動において具体的に意見を出せたので、表にあるように昨年度よりよい結果になったと思われる。

	学年	H15	H14
保体の授業が楽しいと思える割合	1年	42.0	45.5
	2年	47.0	36.2
	3年	47.0	43.0

技家科：右の表は家庭科の学習を終えたときに抽出した1クラスにとったアンケート結果である。

進度表のシールを貼るなどしてスモールステップ毎の点検評価を行ってきたので、早い段階での間違いに気づくことができ、生徒の励みになっていることがわかる。また、具体的な評価の見本があるため丁寧に作るという様子や意欲的な様子が見られた。

	程度	%
進度表のシールは励みになりましたか	とても	21.2
	まあまあ	63.6
	あまり	12.1
	ならない	3.0
段階毎の評価で丁寧に作業をしようと思いましたが	とても	56.2
	まあまあ	34.4
	あまり	9.4
	ならない	0
リトルティーチャー制度は役に立ちましたか	とても	24.2
	まあまあ	48.5
	あまり	18.2
	ならない	9.1

2. 今後の課題

全校生徒を対象にとったアンケートでは教科の学習が好きな生徒が増加してきたり、意欲的な学習が増加しているが、依然として「好きといえる教科がない」とする生徒がいないわけではない。そのため、さらに個に合ったきめ細かな指導を通して「わかる授業」を行い、意欲的に学習できるようにさせたい。

以下は各教科の課題である。

数学科

< 2年 >

- ・資料や教材が不足しており、今後の蓄積が必要である。また、その資料を使いやすく分類したり、整頓するスペースを作りたい。
- ・適切な評価の検討
- ・能力に合わないコースを選択する生徒がおり、授業の焦点を絞りにくい

< 3年選択 >

- ・今年度は生徒の希望でコースを分けたため、人数に大きく偏りが出てしまった。そこで、生徒希望中心のコース分けをするのがいいか、クラス分けテストなどの点数を中心にコース分けをするのがいいのかと今後検討が必要である。
- ・年間2期で行っているため年間指導計画が前期、後期と重複するので、通年で実施可能かどうか
- ・適切な評価の検討

英語科

< 2年 >

- ・3つのコース設定ができないかどうか。2クラスを3コースに分けてやる授業で、完全に習熟度別にしてみてはどうか。
- ・単元ごとにクラスを変えてきたが期間が短いので、定期テストごとにその結果を参考にクラスを希望方法の検討。
- ・全学年で習熟度別の授業への取り組みはできないか。

< 3年選択 >

- ・はっきり上、中、下に分かれているので、それぞれのクラスであった生徒にあった課題を設定して、それぞれの生徒が成就感を得られるように工夫する。
- ・より教材研究を進めたり、計画を立てて進めていく必要がある。

国語科

- ・学習コース設定の際には、生徒の実態をよく把握して設定する。
- ・得意な分野をのびたいと同時に苦手とするものほどアプローチの仕方を工夫して取り組ませたい。
- ・グループ活動を通して、班の役割分担や協力や協力の姿勢を学ばせたい。
- ・書く場の設定を設ける。書くための動機付けが必要である

社会科

- ・同時間、個人別教材を利用する場合、TTの活用など指導形態の工夫を今後も続けていきたい。
- ・教材の研究開発といった場合、教科書以外の教材の工夫と考えられるため、今後一層の研究が必要である。

理科

- ・すべての実験で体験的・問題解決的な実験ができるわけではないが、少しでも多く取り入れていきたい。
- ・次年度以降も実験器具の充実に努めていきたい。単年度での充実は難しいので、年計画で整備していく。また、活用できるように教師間での活用方法を教授し合っていく。

音楽科

- ・少ない授業の中で、いかに効率よく体験的に学習できるのか検討
- ・体験的な活動の継続と授業の中での生かし方。

美術科

- ・今後も継続した机間支援によって、技能面、進捗面などの個人差に配慮し、個に応じた言葉掛けに努め、表現がより豊かに広がりをもつ面。
- ・毎時間、名簿に記録の累積をして、評価に生かすことを来年度も継続していく。

保健科

- ・生徒一人一人にバランスのとれた能力を身につけさせることや、学習の仕方や健康に関する知識を日常生活に関連づけて理解させるために、授業で自己実現できる手だての工夫が必要である。

技家科

- ・標本の見本として、なるべく具体的なものを作成する。
- ・制作の仕方を見本としてビデオなどの準備をする。
- ・自己評価能力の育成

学力把握のための学校の取組について

- ・全国標準学力検査により、分析を行う。(2月)
- ・アンケート、意識調査(各教科年2~3回ないしは単元の初め)
- ・基礎学力計算テスト(数学、年2回程度)
- ・学習ファイルやワークシートなどの反省を通して(保体、毎時間)
- ・白河市スペリングコンテスト(英語、2月)

フロンティアスクールとしての成果の普及について

方法	実施(予定)日	形態	場所	対象
研究会	平成14年11月12日(火)	研究公開	本校	本校教員、指導主事
	平成15年2月25日(火)	講演会	本校	本校教員
	平成15年6月20日(金)	研究公開	本校	本校教員、指導主事
	平成15年11月19日(水)	研究発表会	本校	他校の教員、保護者
	平成16年2月 日	講演会	本校	本校教員
	平成16年6月	授業研究会	本校	本校教員、指導主事
冊子の配布	平成16年11月	研究発表会	本校	他校の教員、保護者
	平成15年3月	まとめの冊子配布	同地区内中学校	
視察受け入れ	平成15年1月30日(木)	視察	本校	石巻市立港中学校職員
	平成15年2月14日(金)	視察	本校	江東区立深川第六中学校職員

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 ✓ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4~6学級
 7~9学級 10~12学級
 13~15学級 ✓ 16学級以上
- 【指導体制】 ✓ 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 ✓ 国語 ✓ 社会 ✓ 数学 ✓ 理科
 ✓ 外国語 ✓ 音楽 ✓ 美術 ✓ 技術・家庭
 ✓ 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ✓ 有 無